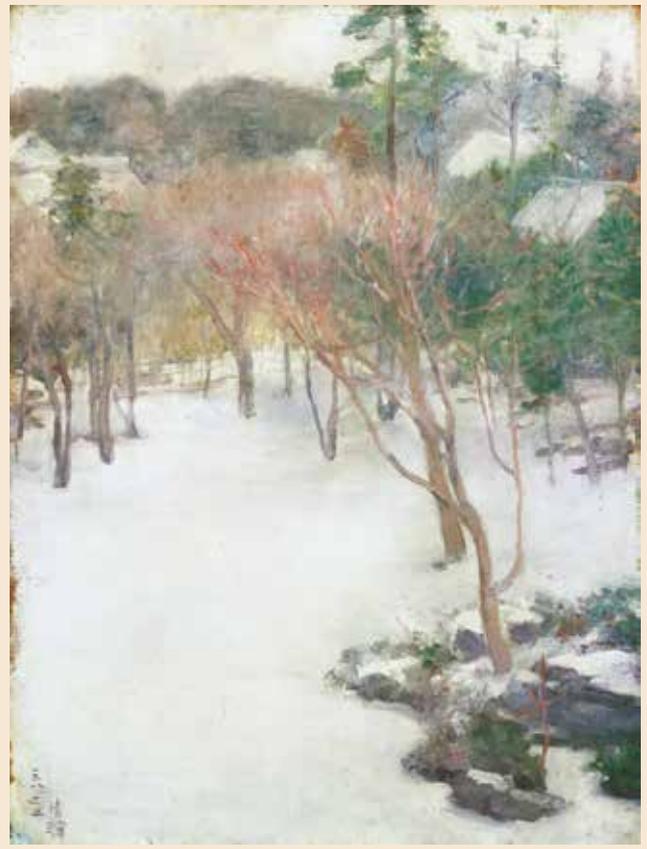




小林千古《パッション》1901年 はつかいち美術ギャラリー蔵



黒田清輝《庭の雪》1905年 茨城県近代美術館蔵



岡田三郎助《イタリアの少女》1901年 大原美術館蔵 (展示期間2月14日～3月8日)

生誕
150年

小林千古と 白馬会展

2020. 2.14 Fri. ▶ 3.22 Sun.

[開館時間] 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

[休館日] 月曜日(但し2月24日(月・休)は開館し、翌25日(火)休館)

[観覧料] 一般800円(700円)、65歳以上400円《要年齢証明》、

高校生以下、障害者手帳をお持ちの方及び介助者は無料

※()内は大学生、前売り料金、20名以上の団体料金、さくらびあ倶楽部会員証・ちゅーピーくらぶ
会員カード・ウッドワン美術館年間パスポートのいずれかご提示の方(1枚につき1名)

※前売券は、はつかいち美術ギャラリー(2月13日まで)・ローソン

チケット(Lコード62130)・チケットぴあ(Pコード685-160)で販売しています。

[主催] (公財)甘日市市芸術文化振興事業団、中国新聞社

[共催] 甘日市市、甘日市市教育委員会 [助成] (一財)自治総合センター



はつかいち美術ギャラリー

〒738-0023 広島県甘日市市下平良一丁目11番1号

(甘日市市役所・はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ 併設)

TEL.0829-20-0222 <http://www.hatsukaichi-csa.net/gallery/>

小林千古と白馬会展

小林千古(本名花吉・1870-1911)は、ハワイ移民の多かった広島県地御前村(現廿日市市)に生まれました。千古は18歳の時に向上心と冒険心を抱き、移民たちと同じ船でハワイを経由しサンフランシスコに渡りました。カリフォルニアデザイン学校に入学し、学資を稼ぎながらの苦学でありましたが、学内のコンクールで最優秀賞を受賞するなど非常に良い成績を取って卒業、この頃から「萬古(BANKO)」と号するようになりました。ヨーロッパでの美術研究を目的に1900年パリに渡り、ルーヴル美術館などで数多くの名画に触れ、また黒田清輝、岡田三郎助らと親交しながら、さまざまな刺激を受け画業に研鑽します。帰国後、1905年に上京し、黒田や岡田が主要メンバーとなっていた白馬会創立10周年記念絵画展に、号を「千古(SENKO)」に変え22点を出品し日本画壇へデビューを飾りました。白馬会はフランスで明るい外光派の画風を学び「新派(紫派)」と呼ばれた黒田、久米桂一郎らが中心となり、1896年に結成した美術団体でした。

小林千古生誕150年を記念する本展覧会では、千古がサンフランシスコ、パリ、ハワイなどで制作した作品に加え、白馬会創立10周年記念絵画展に出品した黒田清輝、久米桂一郎、岡田三郎助、和田英作ら白馬会の画家達の作品をあわせてご紹介いたします。



2



3



4



1

- 1 久米桂一郎《夏の少女(村娘)》1894年 公益財団法人中野美術館蔵
- 2 和田英作《夕空》1904年 東京藝術大学蔵
- 3 湯浅一郎《徒然》1904年 群馬県立近代美術館蔵
- 4 ルイ=ジョセフ=ラファエル・コラン《若い娘》1894年 福岡市美術館蔵

関連行事

担当学芸員による日曜ギャラリートーク

[日時] 会期中毎日曜日(2月16日、2月23日、3月1日、
3月8日、3月15日、3月22日) 各日14:00~14:30

[場所] 展示室内

※参加無料(要観覧券・申込不要)



交通案内

■JR広島駅から(所要時間約45分)

①JR山陽本線で「宮内申戸駅」下車。広島方面へ徒歩約15分。

②JR山陽本線で「廿日市駅」へ、広電宮島線に乗り換え「広電廿日市」から「廿日市市役所前(平良)」下車 徒歩約7分

■広島市市中心部から(所要時間約1時間)

広電宮島線で「廿日市市役所前(平良)」下車 徒歩約7分

■廿日市I.C.から(所要時間10分)

山陽自動車道「廿日市I.C.」を降りて西広島バイパスを広島方面へ。上平良交差点を南へ約1km、陸橋を下りてすぐ左折。

*駐車できる台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用下さい。

はつかい美術ギャラリー

〒738-0023 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

(廿日市市役所・はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ 併設)

TEL.0829-20-0222 <http://www.hatsukaichi-csa.net/gallery/>